

落ち着きを見せる米金融不安と今後の焦点（上）



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米金融機関を巡る混乱は一旦収束か

3月に米金融機関が複数破綻したことで、米国では金融システム不安が高まる場面もありました。ただ米当局の迅速な対応もあり、こうした不安は一旦収束に向かっているようにみえます。

FRB（米連邦準備制度理事会）が最後の貸し手として提供する「連銀窓口貸出制度」を通じた銀行の借入残高は、米シリコンバレー銀行などが相次いで破綻した直後には1,529億米ドル（3月15日時点）にまで膨らみましたが（右上図）。しかしその後は減少傾向にあり、直近3月29日時点での残高は882億米ドルにとどまっています（同図）。複数の金融機関の破綻を受け、3月12日に導入された緊急融資枠の「バンク・ターム・ファンディング・プログラム」の借入残高との合計は29日時点で1,526億米ドルとなり、前週の1,639億米ドルから減少しました。これは米金融機関の流動性問題が最悪期を脱しつつあることを示唆しています。

ポイント② 米商業銀行の貸出姿勢が焦点に

その一方で米金融不安が高まって以降、金融機関からの預金流出が続いており、金融機関の貸出姿勢が今後厳しくなる可能性もあります。米商業銀行の預金残高は3月22日までの2週間で約3,000億米ドル減りました。とりわけ預金流出が目立つのが小規模商業銀行で、足元では預金流出の動きは一巡していますが、同2週間でみると1,900億米ドル超となっています（右下図）。

米当局による流動性供給によって米金融機関の破綻に歯止めがかかっていることはプラス材料といえます。ただ、預金流出により金融機関の貸出姿勢が厳しくなると、他の業界で資金繰り懸念が高まる可能性もあり留意が必要です。

米連銀窓口貸出制度の借入残高



期間：2008年1月2日～2023年3月29日、週次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米小規模商業銀行の預金残高と同前週比増減



期間：2022年1月5日～2023年3月22日、週次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。